区分・種別	県指定有形文化財（石造物）		
名　　称	七重石塔（しちじゅうせきとう）　1基		
所　在　地	西条市福武		
所　有　者	金剛院	管 理　団 体	
指定年月日	昭和29年11月24日		
解　　説	金剛院は仏生山光明寺、本尊不動明王、真言宗御室（おむろ）派の寺である。この七重石塔は、本堂南側にあり総高322cmの花崗岩製である。 七層の屋根もこぶりなもので、反（そ）りもゆるやかな曲線でつつましやかな感じのものとなっている。 伝承では、鎌倉幕府３代将軍実朝の遺髪塔（供養塔）といわれているが、特別な史料は残っていない。実朝は建保７（1219）年に非業の最期を遂げており、夫人である北の方（剃髪して本覚尼）が文永年間（1264～75年）の実朝の50回忌に供養のため建立したものといわれている。 石塔軸部には径９寸（27cm）の（月輪）の中に梵字アーンク（大日如来の種子（しゅじ））が彫ってある。		